

〈資料〉

シドニーにおける 日系企業の社長へのインタビュー

星野靖雄

■山口正人氏インタビュー

(株式会社日本ブレン・センター・オーストラリア, 株式会社エーブルネット (ABLE Net), V7 オーストラリア, エーブルエデュケーション 代表取締役社長)

本インタビューは、科学研究費補助金 基盤研究 (c) 平成 21 年—23 年での研究課題「国際企業合併, 買収, 完全子会社の収益性の実証研究」での、平成 21 年度の研究としてオーストラリアに進出している日系企業の実態調査の手始めとして、現地で活躍しておられる日本人の会社社長へのインタビューを 2009 年 3 月 24 日にシドニーの会社で実施した、その内容の一部である。筆者は、豪日交流基金 (オーストラリア政府) からの基金でシドニー郊外にあるニューサウスウェールズ大学大学院商学研究科 (州立) で 1985 年から 1 年半、日本経営論等の講義を担当したのであるが、山口氏は同じ時期に日本人で同大学のオーストラリア経営大学院 (国立) で MBA を取得され、オーストラリアにおける日系企業のことをインタビューするには最適の人物であり、旧知の間柄であったのでお願いした。同氏は甲南大学を卒業後、(株) 高島屋、パリ・タカシマヤを経て、豪州系・英国系の投資銀行でアソシテート・ディレクターを務めた後、1988 年、日系最大のビザ・コンサルティング会社 (株) 日本ブレン・センター・



左より山口社長と星野教授

オーストラリアを設立され、その後、携帯電話のレンタル会社、日本人のための人材会社、インド人をオーストラリアと日本に紹介する会社の計4社を設立されている。山口（2000）また、同氏は、甲南大学同窓会、ニューサウスウェールズ大学日本人学生同窓会の事務局もされている。日豪プレス（2009）

聞き手：星野靖雄（愛知大学会計大学院教授）

星野：山口さんとはお久しぶりですが、ニューサウスウェールズ大学商学研究科はいつご修了でしたかね。

山口：修士課程を修了したのが1987年ですね。

株式会社日本ブレーン・センター・オーストラリアについて

星野：それで、今のこの会社は、いつ立ち上げられたのでしょうか。

山口：はい、わたしはMBAを修了してから、ウエストバック系の証券会社でオード・ミネットというのがありまして、実はそこで永住権を取ってくれると。マネージャーをやらないかというお声が掛かって。そのときウエストバックは東京に事務所を、会社を持っていたんですね。だから永住権の申請は半年かかったんですけど、6カ月間は東京のウエストバックで研修、為替と株式と債券の研修を受けてこっちへ戻ってきた。

そこにしばらくいて、その次は英国のミッドランド系の銀行がありまして、その投資銀行で、オーストラリアの株式と債券のアソシエートディレクターというかたちで仕事をさせていただいたというような感じですね。

ここは、3年たってからその後でこの会社を設立して、最初はマーケティング。MBAでわたしはマーケティングを中心に勉強しました。ちょうど日本の企業がこっちに来ることになりまして、花玉石巖さんとか、じゃあオーストラリア人は一体どんな洗剤を、どれぐらいの量を使っているんだと。そんなデータがどこにもなくて、それで私が道を歩いている人に、1回1回聞き取り調査をして、その資料をデータ化して、だいたい見えてきたということで、花玉石巖さんをやったりとか。あとはミスタードーナツかな。

だから、最初はそういうマーケティングばかりをやっていたんです、リサーチを。あと、高島屋さんが来たときに、じゃあ何を売ればいいんだとか、そういったいろいろな調査をずいぶんやらせていただいて、結構、いろいろと。

星野：調査は、この会社の名前でやられたのですか。

山口：もちろん日本語で。ただ、やっているのはだいたい電通さん。電

通さんが、でかい会社さんからそういうマーケットのリーサーチをというので、わたしが下請けで全部やって、資料を提出させていただくということですかね。

ただ、ミスタードーナツとか、あと高島屋さんとか、そういうのは全部NBCA（株式会社日本ブレン・センター・オーストラリア）という名前でやらせていただきました。

最初にマーケティングリーサーチで、リーサーチするじゃないですか。そうすると、会社に来ますよね。高島屋も、ミスタードーナツも、全部来たわけですよ。そうすると、誰か知り合いで日本人を紹介してよとなるわけです、社長秘書とか、営業部長とかで。じゃあ、分かりましたで、最初無料で紹介していたんです。よく考えれば、これは人材紹介というビジネスになるなどというので人材紹介をやった。

人材紹介をやっているうちに、だんだん人事の方からいろいろお話をいただくようになって、結婚したんですけど、まだ1カ月でビザがないんですけど仕事をしたいですかとかいうので、ビザのことを調べているうちにビザの会社になった。だから、わたしが日本人で最初のビザのライセンスを持った日本人になりましたね。オーストラリアのビザのライセンスを。

山口氏の4会社

そうこうしているうちに、教育関係なんかもやり出して、日本語の教師のアシスタントを派遣するとか。それが、今NBCAなんですけど、わたしは、今あと三つ会社を持ってまして、携帯電話の会社と、日本に日本人を紹介するそれ専門の会社と、あともう一つはインド人をオーストラリアと日本に紹介する、留学です。もうインド人を絞り込んで。というのは、世界で大学生の数が一番多い国はインドなんですよね。

星野：人口が。ああそうですか。中国じゃなくて。

山口：そうなんです。というのは、中国は超エリートしか大学へ行けないんですよ。インドは結構アメリカに近くて、ピンキリの大学があるんですよ。英語圏だから、彼らが出ることについては何にも問題はない。インドで今一番留学で人気がある国は、実はアメリカではなくてオーストラリアなんです。だから、すごい人数のインド人がオーストラリアに来てまして、今後さらに、インドは、今は中進国ですけど、将来大きな経済大国になったときには豊かになれば、もっともっと海外に留学するだろうというので今やり始めています。というところですかね。

星野：三つの会社って、これ全部 NBC，別の名前ですか。

山口：全部、別の会社です。

星野：そうですか。

山口：携帯の会社が、株式会社エーブルネット (ABLE Net) という会社です。

星野：他は何ですか。

山口：一つが V7 オーストラリア。もう一つが、エーブルエデュケーションです。インド人専門の学校です。それは全く別の会社です。もう今はパートナーシップを組んでやっていますから。わたしが本を出したのを見ていただいています？

星野：いや。残念ながら見てないです。

山口氏の本と会社

山口：『自分がいなくてもまわるチームをつくろう！』という本。実は今、この本、日本でベストセラーで売ってます。

星野：そうですか。知らなくてすみません。

山口：もう今、3万部ちょっと売ってます。去年の1月に売り出して、まだずっと増版。もう30版ぐらいいっているのです。それで、3万部です。要は、わたしは仕事しないけど、ほかの人に仕事をしてもらってう

まくまわるようにということ。

星野：そちらの手元の本は何の本ですか。

山口：これはですね、オーストラリア唯一の移民法の本です。

星野：はあ。そういうのがあるんですか。

山口：ええ。これは改訂版ですけどね。初版があって。これは5,000部ぐらいしか売れなかったんですよ。オーストラリアの移住を考えたりする人は、皆さん全部、この本を買っていらっしゃるんですよ。というか、これしかないんで。オーストラリアの移民法のガイドブックというのはこれしかないですよ。

星野：当方は、研究テーマが「日本企業の海外での企業合併、買収の収益性」で、これまでは、留学生と英文で共同論文をいくつか書いています。

山口：なるほど、企業合併なら、銀行さんとか、証券会社へ調査に行かれるわけですね。

星野：今のところ公表されたデータを計量分析して論文を書いています。先ほどの話で、四つの各会社の従業員規模はどれくらいですか。

山口：そうですね。今うちのこの会社で6人ぐらいで、あとエーブルネットが7人ぐらいで、V7は3人で、エーブルエデュケーションは先々週ぐらいに立ち上げた会社ですから、今のところまだ2人しかいません。

星野：資本金は、各々どれくらいですか。

山口：資本金というのは、この国で何にも関係ないですよ。普通は、だいたい100ドルぐらい。

星野：100ドル？

山口：はい。

星野：名刺に Pty Ltd と記載されていますが、これが会社ということですね。

山口：株式会社です。

星野：これを取るのに100ドルですか。

山口：いいえ、最低1ドルでいいんです。

星野：日本でも最低資本金制度は廃止されたのです。従来は1,000万円と
いうのがあったのですが、現在はありません⁽¹⁾。

山口：この国はそうなんです。だから、通常この国の会社の話で一つの目安
あって、「じゃあどれぐらいの規模ですか」、「どれぐらいの資本金です」
ってよく日本的には聞かれないですか。この国は、ほとんどの方がだ
いたい100ドルから1,000ドルぐらい。なぜかと言うと、それで株式に
載る。じゃあわたしは50%の株式を持つから、じゃあ50ドルとかね。1
株1ドルにすればいいわけですよ。そんな感じです。というのは、べつ
に資本金が大きいから何ですかという話になるんですよ。というの
は、資本金というのは、例えばそうですね、会社の具合が悪くなって
回らないというときには増資したりはしますけど、順調にしている会
社で、資本金を大きくする理由はあんまりない。上場するというのはま
た別ですよ。そういうことを考えている中では別だけど、一般には、あ
んまりうんぬんしないですね。

星野：そうですね。資金調達はどういうふうにされるのですか、そうす
ると。

山口：資金調達。そうですね。わたしの場合は、全部自分のお金でやっ
ていますから、そんな銀行から、オーストラリアは金利が思い切り高いじ
ゃないですか。

星野：ああ、日本人からするとそうですね。

山口：そうですね。もうわたしが来たとき18%でしたから、サラ金並み

(1) 最低資本金規制の特例廃止について 経済産業省(2010)

平成18年5月1日から施行された「会社法」により最低資本金規制が撤廃
され、最低資本金の規制を受けない株式会社設立が可能となるため、最低資本
金規制の特例制度は5月1日に廃止された。

ですよ。だって、公定歩合が16%ぐらいでしたからね。だから、仕事をしないで銀行にお金を預けているのが一番よかった。それで、だいたいい18%から、ものによっては20%で回ったんですね、年率。まあ、昔の話ですけどね。

星野：今はどのぐらいですか。

山口：今は3.5ぐらいじゃないですか。

星野：ああ、そうですか。

山口：はい。だって、この半年で半分ぐらいになったのですよ。サブプライム問題のおかげで。だから、借金のある人はみんな喜んでますよ。ただし、金利生活者は大変ですけどね。

星野：ああ、そういう方もいらっしゃるわけですね、当然。

山口：いや、もちろん、それは、オーストラリアの方は結構、株式とかを買っていらっしゃいますから。

年金問題

星野：年金で生活している人はいいのでしょうか。年金額は減らないわけでしょうから。

山口：この国は、自分で掛けたものを自分の自己責任でもらうんですよ。

星野：まあ、アメリカに近い。

山口：だから、日本型401Kとかと言うじゃないですか。要は、そういう年金、自分の責任で運用するんです。

星野：日本では、年金はあんまりよくないという感じですね。

山口：だから、株式で投資しているなんて、今、もう株は半分ぐらいになっていますよね。同じですよ。

星野：それはアメリカと同じですね。

山口：ニューヨークダウも、東証も、日経平均ダウもこっちのオールオーディナリーズも全部もう、だいふきのう、まあ、この数日戻しています

よね。オバマさんのいろんな政策発表が響いたんで、かなり回復してきてますけどね。東証もやっと8,000 抜けましたもんね。今、8,000 いくらでしょう。

星野：だから、要するに年金が変動しているということですね。

山口：すごい。だからもうどすんと行きましたからね。

星野：年金はもちろん、もらっておられないわけですね。今、働いておられるから。

山口：いや、だってこの国は65歳からですから。

星野：65になったら全部くれるわけですか。65になっておられないでしょう、まだ。

山口：いや、わたし58歳です。

星野：まだ、だいふありますよね。

山口：だいふあります。

星野：それまでは関係ないと。

山口：関係ないですね。

星野：ただ、選択する権利がありますね。どういう株式なら株式がね。

山口：いや、それはだから全部自分で。

星野：自分、自己責任でやられるわけですか。

山口：やっています。一般の人は、だから、好きな、要はそれをスーパーアニュエーション・ファンド (Superannuation Fund 退職年金基金) っていうんですけどね。だから、だいたい日本でいう保険屋さんがそういうのを組んでくれるわけです。じゃあ100%定期預金、絶対堅いですよね。その代わり利回りが低い。じゃあ半分定期預金で、半分はブルーチップの株式に投資しましょう。あるいはリート (REIT) 不動産証券です。そういったものに分けてみましょう。こういういろいろなんですよ。

星野：今、リートもよくない、日本は。

山口：いや、いや。もうここだってよくないですよ。同じですもん。

星野：まあ、全体、同じですけどね。

山口：世界と同じように動いていますから。

デリバティブ問題

星野：だから、大学なんかでも大規模にデリバティブやっていて、愛知大学なんかも、あと、駒澤大学や慶応大学なんかもやっていて、全国の大学でもう十何%デリバティブで損していると言われていたからね。特に危ないと言われるのは、匿名だったけどね。

山口：匿名が、それが、慶応と愛知ですか。

星野：いや。それは匿名じゃない。どこが特にひどいかというのは発表されていないから分からないけど、愛知は名前を見せているからね。南山大学は32億、愛知大学28億とかね。デリバティブの損失ですよ。僕は全然知らなかったのですが⁽²⁾。

山口：そんなにやられている。

星野：うん。要するに、そういうデリバティブを買っちゃった人がいるわけですね。財務担当の常務理事とかね、副学長とか、学長とかでしょう。当時の人がやっていて、その関係していた人は亡くなっちゃっててね。

山口：大変ですね。

星野：名古屋駅近辺に新校舎を建設するのですが、少しその予定を遅らせる。1期と2期の工事に分けて、1期は3年後、2期は6年後と、教育施設は先に、研究施設、コンベンション施設は後で建設することになりました。駒澤大学では、理事長が責任をとられ解任されている。ハーバード大学なんか、デリバティブの損失は約1兆円で桁が2桁ぐらい大きい感じですからね。大学経営ニュース（2008）。

(2) 読売新聞（2009）によると、愛知大学は117億円、南山大学は68億円のデリバティブ損失としている。

山口：まあ、デリバティブですからね、てこの原理で。

星野：デリバティブの運用の失敗ではないけれど、オーストラリアの大学の例として、ニューサウスウェールズ大学もすごい投資して撤退しましたでしょう。かなり有名ですよ。財政的な赤字、今、大変でしょう。シドニーに分校を作ったのですが、撤退したんですね。

山口：作りましたね。

星野：あれが全部失敗して撤退したらしいんですよ。

山口：そうでしたか。すごい。

ビザと失業

星野：話は変わりますが、ビザを取るという場合は、永住権を持っていると、もういつでも入れるわけですね。

山口：はい。ただ、うちのお客様のほとんどは日系企業さんなんです。ビジネスビザ。

星野：そうすると、あれは何年間有効ですか。

山口：4年間。だいたい駐在員は平均すると4年なんです。

星野：もう4年で帰っちゃうんですか。

山口：3年の人もいるし、4年の人もいるし、5年の人もいますけど。

星野：あ、5年もある。

山口：もちろんいますよ。

星野：すると、もう1回？

山口：もう1回やりますよ。はい。

星野：ビザを取るといのは、すごく大変な作業ですか。

山口：作業は大変ですね。どんどんどんどん厳しくなっています。新政権になってから特に大変ですね。要は失業率が今で4.5、6%でしょう。それが年末には7になるという予測が出ているわけですよ。これってすごいんですね。オーストラリアで、それこそいっぱい失業保険もらって

遊んでいる人たちが山ほどいるんですけど、だから常には高いんですよ。

だから、オーストラリアの4.5と、日本の4.5では全然意味が違いますよ。こっちは絶対にもう失業保険をもらって、それで楽しく遊んでいる人がいっぱいいるから高いんですね。それが、仮にも7になるということは、本当の失業者がいっぱい出てくるということですよ。それはえらいことなんですね、この国ではね。

星野：日本でも、失業率はまた上がり始めているんでしょうから、似ているといえば、似ているけども。

山口：いや。だけどその中身が。その重たさが違いますね。だって、オーストラリアは永遠に失業保険をもらえますから。日本だと3カ月とか6カ月じゃないですか。

星野：日本では現在短いですね。

山口：そうでしょう。

星野：オーストラリアでは永遠にもらえますか。

山口：永遠にもらえますよ。

星野：仕事に来るまで。見つけるまで。

山口：いや。要は自分は会社の仕事をしたいから、面接に行ったけど向こうが採用してくれなかった。で、ビーチで騒ぎをしている。

星野：資格を、そのときだけ、年に何回かトライしたらいいんですか。

山口：いや。だから、当然。

星野：継続してきちゃうと。

山口：こちらは、日本でいうハローワークみたいなところがあるわけです。センターリンク（Centrelink）というんですけどね。そういうところへ行って、「自分は求職活動をしております。どこどこへ行きました。願書を出しました。面接も行きました。だけど駄目でした」、「そうか、そうか」と言ってくれるわけです。

星野：それは、どれぐらいくれるんですか。

山口：週に300ドルぐらいじゃないですか。

星野：週300ドル、月だと1,500ドルぐらいですか。

山口：そうですね。

星野：12万円ぐらいですか。

山口：そんなものでしょうね。

星野：12万で生活できますか、一人。

山口：いや、だってそういう人たちは、そういうお仲間とみんな集まって、それで5部屋か6部屋ぐらいあるところに10人20人住んで、みんなで家賃を出し合って、食品を買って、楽しくやっている。

星野：生活保護が、日本の場合は一人当たりにした場合、十何万円ぐらいの生活保護費が貰えます。しかし日本の場合は、生活保護を取るのがものすごく難しいようです。

山口：ですよ。

星野：それでホームレスがいっぱい。何でホームレスがいっぱい出ちゃうかという、生活保護を取るのが厳しいからはじき出されちゃって、その受けられる人が、今は増えていますけれども、いぜんとして行き渡らない。だから、インターネットカフェにずっといて、日々の日雇いみたいなことやって食いつないでいる。そういう状態があるということは、日本のほうが運用が厳しいのでしょうか。

山口：すごく厳しいと思いますよ。この国は思い切り甘い。

星野：昔から甘いという感じはしていたけど。特に女性で子どもがいると、何も働かなくても、確か生活できるようになっていますでしょう。

山口：はい。できますね。失業保険よりずっといいです。だから、うちも人材の仕事をやっているじゃないですか。子どもが少し預けられるような年齢になったんで、自分は仕事がしたい、シングルマザーだったんですけどね。「こういう仕事がありますよ」と言ったら、「これは税引き後いくら残ります」と、「計算したらこうですよ」と。そうしたら今貰っ

ているシングルマザー手当というのがあるわけですよ。それとちょっとしか変わらない。じゃあ、わたし1日8時間仕事して変わらないんだったら、こっちのほうがいいじゃないですかと。

星野：そのインセンティブ付けが弱いとそうなるよね。

山口：そうなのです。

星野：差を付けないといけないですね。

山口：はい。そのとおりですよ。だって、こっちは子どもを預けるのにすごくお金が掛かるんですよ。

星野：ああ、そういうこともあるか。

山口：すごく高いです。だから、それを払っちゃえば、もう何しているか分からない。じゃあ、もう自分で子どもの面倒をみて、シングルマザーの手当を貰ってるほうが、よっぽど楽でいいよね。

星野：家内のオーストラリア人の友達にシングルマザーの人がいて、前に名古屋に住んでいた時、名古屋まで来られました。わたしの名古屋市大の官舎に泊まったことがあります。海外旅行できる余裕がありました。それはすごいな、余裕があるなと思ってね。日本じゃ、ちょっと考えられないですね。

山口：考えられないですよ。

星野：それぐらいの時間とお金の余裕があったので、その後彼女は大学へ行って、シドニー近郊の1戸建てに住んで、大学で教えています。成功例ですね。そういう意味じゃ、非常に恵まれているから、結局、アメリカなんかと比較すれば犯罪が非常に低いという感じがしますよ。治安がいいと。

治安問題

山口：そういうことですね。まだコミュニティーがそれほど崩壊はしていない。もうアメリカというのは、もうある意味コミュニティーもないし、

弱者は切り捨ててですよ。

星野：だから、日本もちょっとアメリカに引っ張られている傾向があるけども、オーストラリアのやり方のほうが、社会としては好ましいというかね、全体のね。

山口：そうですね。

星野：治安が悪くなると、やっぱりこれは非常にまずいで。それは基本的なことですからね。

山口：そうですね。

星野：だから、その点、オーストラリアは比較的昔から治安はいいというイメージがあって。犯罪はあまりないのでしょうか。

山口：いや。もちろん犯罪はあるんですけど。

星野：要するに発生率という問題ね。

山口：やっぱりドラッグ。そっちがあるんですよ。

星野：それは日本でもいろいろ俳優とかタレントが世間を騒がせている。

山口：大学でも早慶が出てきて、あと同志社が出てきて。

星野：そう、相当持っているんじゃないかと。何で、あんなものが必要なのかと不思議な感じがするけどね。たばこの一種のような感じなんじゃないか。

山口：いや。だって、もう大学生で当たり前になっているんでしょう、今、日本では。

星野：いや。そんなことは、僕、全然認識ないですよ。

山口：いや。それは先生が知らないだけじゃないですか。もう今、大学生に聞いたら、そんなのはもうマリファナなんて、どこでも手に入るって。

星野：そうですね。たばこだって、僕はもともと吸わないからね。

山口：当然わたしも吸わないんですよ。だから、オーストラリアでも。

星野：マリファナは、たばこみたいなもんだと思っているから、恐らくそのひどいやつだろうと思っているから。

山口：まあね。

星野：全然関係ないと思ったけど、やっぱり吸う人、禁煙ということが割と徹しているんじゃないですか、ここは。

山口：この国は徹していますね。だから、どんどん減っていますよ、たばこを吸う人。

星野：そのほうがいいですよ。

山口：だって、吸う場所がないんですよ。

星野：そう。それがいいんだよね。屋外は可なんですか。歩きながらもよろしい。

山口：だから、結局屋外しか吸えないですよ。

星野：手に持って歩いている。女性もかなり外で吸っていますね。

山口：ビルでは一切吸えないからです。レストランも駄目になりました。

星野：公共の場所は駄目ですが、ただ外で、歩く分にはいいというので、手に持って歩いているということですか。

山口：パブが、ある州によっては駄目で、ある州によってはいいのです。だから、みんなが訴訟をするんですよ。自分はパブの従業員で働いていたと。10年働いた。で、パブはたばこを吸わせているじゃないですか。そうすると、その結果、自分は間接喫煙で肺がんになりましたと。この因果関係は明らかです。自分はたばこを吸いません。だから、パブに訴訟をして勝ちちゃっているんですよ。そうすると、パブはその人たちに、それこそすごいお金を払うわけですよ。

星野：日本だったら、タクシーの運転手がそういうことで、もう禁煙タクシーがだいぶできてきたとかね。同じですよ。訴訟まで行ったかどうかは知らないけど、やっぱり結局訴訟で勝敗を付けないと、解決しない。

山口：うん。だから行政は動かないんですよ。

星野：そういうようにやると動くんでしょ、やっぱり。

山口：そういうことですね。

裁判制度

星野：だから、訴訟で勝敗を付けると行政側も動くので、訴えたほうがいいですね。裁判といえば、日本でも裁判員制度でができ、裁判官のみならず、一般の人が入って行って、一般的常識を入れるという、割とネガティブなことを言う人がいるんだけど、大いにいいんじゃないでしょうか。ここには、裁判員制度はあるんでしょう。

山口：ここには、裁判員制度じゃなくて、陪審制度でということですね。もちろんあります。

星野：英米が始めたんだよね、恐らく最初に。

山口：うん。だから、法体系はほとんど英国ですから。

星野：ああ、そうでしょうね。

山口：英国があって、その後でアメリカができたし、その兄弟分としてのオーストラリアが存在するわけで、「道路交通法」は、アメリカは独自のものにしちゃいましたが、オーストラリアの場合は植民地ですから、ほとんど英国のものをこっちへ持ってきているから、陪審員制度も同じです。

星野：あれは優れた制度だね。ドイツ系にはないのか、ああいう発想が。

山口：それは存じません。ドイツはよく知らない。

星野：やっぱり日本は裁判員制を今やっと入れるようになって、動き出しています。何千人かに一人ぐらだから、当たる確率は低いけどね。

山口：オーストラリアはよく当たりますよ。

星野：当たりましたか。

山口：いや。わたしは当然オーストラリア国籍を取ってないですから。

星野：あれは国籍でやっていますか。永住権は関係ないですか。

山口：そうです。永住権は関係ないです。だからよかったです。しょっちゅううちの社員が、「すみません、陪審員にまた任命されたから、わたし

を出張することにしてください」ってくるので手紙を書くんですよ、わたしの名前で。彼、あるいは彼女は、いつからいつまで重要な出張が長期にわたってあると。だから、この時期陪審員になれないと。

星野：出張にするんですか。ああ、逆だ、参加しないで、「ノー」と言っちゃうわけ。拒否できるわけね。

山口：いや。したくないんです。だって、何もできなくなるじゃない。仕事はできないわ。

星野：陪審員の期間はどれくらい取られるんですか。

山口：いや。それは裁判によりますので、それは分かりませんよ。

星野：予想できないのですか。

山口：いや。それは、途中でいろんな証人が出てくる、予定に来られないとか。

星野：平均的にこれくらいかかるというのもないのですか。

山口：いや。それはちょっとわたし聞いていないんですけど、やっぱり最低、1日2日では終わらないですよ。

星野：それは分かりますけどね。何か月単位で、1週間に1回、2時間なら2時間行って、何か月ぐらいのイメージとかね。

山口：うん。ちょっとよく分からないですね。

星野：分からないですか。日本はもちろんもっと情報が無いのですが。もう始まる予定です。

山口：だから、みんな迷惑がっていますね、はっきり言うとな。仕事をしている人間で、そんなに時間を取られたら困ります。

星野：その間は、でも給料を払うわけでしょう。

山口：いや。そんなの微々たるもんですよ。

星野：減っちゃうんですか、給料は。その陪審員制度をやっているときには。

山口：そんなの会社と関係ない話じゃないですか。

星野：だけど、それは国が税金で補てんするようなものですね。

山口：たぶん有給を取るんじゃないですか。

星野：有給と云って。取れるぐらいならいいのだけど、取れない場合は大変ですね。

山口：だけど、国籍を持っている人間の義務ですからね、陪審員はね。

それに、選挙権の行使については、この国では、行かなかつたら罰金を取られますからね。

星野：罰金を取られますか。それは厳しいですね。

山口：取られますよ、この国では。

星野：そのほうが機能的にできているんだね、このイギリス系とか英米系のほうが、日本に比べると。

山口：そうですね。だけど米国が罰金を取るかどうか、わたしは知りません。

星野：今の陪審制、そういうような制度といい、これはやっぱり民主主義的な発想が非常に強いのですね。

山口：だから、当然民主主義というのは権利もあるけど、義務もありますよということを、はっきり法体系に出している。

星野：そうね、そこはきちんとしていると。日本の場合は両方ともはっきりしていない面があって、法律には書いてあつても、そんなもの関係ないように思っている人がいるとかね。

山口：そうですね。

星野：信号を赤で無視するのは、あれはアメリカでは結構多いが、日本人ならよく守るかな。

山口：日本人はよく守りますよ。

星野：日本人はね。ちょっとおかしいと思われることもありますか。

山口：車が全然来ないのに、ずっと信号を待っている馬鹿がいますね。

星野：だから、実質的に危なくなきゃ渡るっていう発想だよな。

山口：うん、それは、すべて、だから自己責任なのです。

星野：そう。自己責任。リスクは自分で負うということだよな。

山口：そうです。

星野：そういう発想だったら分かるのですね。

山口：だから、年金も自己責任なのです。あなたが自分で判断して、自分で投資したんだから、株が下がったら自分の責任でしょうという発想。だから、日本だと、いや、薦めたからわたしは買ったんだと言ってね。それは販売員は薦めますよね。だけど、最終決定は自分なんだから、自己責任でしょう。この理屈でこの国は通りますもん。

雇 用

星野：そうですね。そういう意味では、ビジネスもまさにそのとおりです。会社の経営の話で、例えば人を雇うときには、どういうやり方で採用されるのですか。新聞か何かに広告を出すのですか。

山口：そうですね。昔は新聞ですけど、今はもうインターネットですね。

星野：インターネットでね。そうですね。日本もだいぶそう。

山口：日本もそうでしょう。リクナビとか、あとエン・ジャパンとかありますよね。

星野：どれぐらい、週給いくらという感じで出されるんですか。

山口：この国は、通常はマンスリーか、アニュアルか、どっちかですね。

星野：マンスリーですか。日本と同じですか。

山口：か、アニュアルか。

星野：マンスリーかアニュアルでいいんですか。

山口：はい。アニュアルが多いですね、給与プラス、スーパーアニュエーション (Superannuation 退職年金)、9%ですけどね、年金。

星野：それも入れてやると。

山口：だから、別々に書かないといけません。

星野：別々に書くのですか。

山口：はい。あるいはパッケージとなると、それは含まれます。

星野：どういうランク、いろんな職種によってあるわけですね。オフィスワーカーという感じですか。

山口：だから、もうそれはすべて、どういうんですかね。そういうのは仕事の中身を詳しく説明して、給与はいくらからとか書いていますからね。何ができなきゃいけないと、非常に具体的です。

星野：面接して採用する。

山口：もちろんそうですね。

星野：勤務年数というか、仕事は長く続けますか。

山口：恐らく平均3年ぐらいじゃないですか。

星野：3年ぐらいですか。3年ぐらいでまた別のところへ行っちゃう感じですか。

山口：はい。だから業界によるのですよ。日本もそうですけどね。オーストラリアはジョブホッピングが多いですね。だから、人材紹介会社が儲かるんです。

星野：米英系はそういう感じが強いですね、確かに。人材紹介を自身もやられておるわけだ。自分のところの会社もそうだね、そうなるわけね。3、4年で変わっちゃいますか。

年齢制限は、確か入れられないのじゃなかったですか。

定年制

山口：入れられないです。アンチディスクリミネーションロー（Anti-Discrimination law 「反差別法」）というのがあるんです。

星野：職種でセクレタリーなら、セクレタリーと出して、非常に年齢が高い人が来た。それは、そういうことでは採用できないことはない。

山口：だから、あなたは年齢が高いから採らないとは絶対言わないですね。

星野：ほかの理由を挙げると。能力が足りないとか。

山口：はい。

星野：大学なんかは、もう定年ないですか。

山口：だから、それは年齢によって「あなたはもう辞めてください」はないですよ。それはアンチディスクリミネーションローに引っ掛かりますから。だからほかの理由ですよ。

星野：何ですかね。現実には、オーストラリアの大学が定年ないという感じだけど。

山口：いや。ないですよ。どこの会社も定年はないんですよ。

星野：ないのですか。アメリカと同じですか。

山口：いや。それは違法なんでもん。

星野：アメリカと同じですね。

山口：はい。

星野：だから、実質的に年金があるから、生活できるからもう、ある年齢になると辞めちゃうということなわけね。仕事をやりたくないということですか。

山口：要は、もうそれこそ仕事というのは、聖書によればエデンの園は禁断の木の実を食べたがために、罰として労働を強いられたという発想でしょう。いや、そうなのです。だから、本当は仕事をしたくない。だけど、仕事しないと生活するお金がないから、嫌々仕事をしていますということですよ。

だから、ちゃんと年金があって、退職する、この国でいうとハッピーリタイアメントという表現があるんですけどね。なぜハッピーリタイアメントか。早く年金だけで自分は生活できるようになるというのが、すごく幸せなわけですよ。人生の成功者です。だから、40歳で退職する人のような成功者がいっぱいいます。

星野：いますか。

山口：いっぱいいます。もう何人も見てきました。みんな、だからそのときは会社でパーティーします。シャンパン、パンパンってやって、「おめでとう、よかったよな、おまえ45で辞めるのだ」と言って。

星野：そうですか。日本だったら、「あれ？」っていう感じしますね。欠陥人間に思われちゃう、逆の意味で。

山口：もうすごいですよ。だから、マンションをいっぱい持っていたりね。家を持っていたり、株を持っていたり、もうヨットを持っているわ、牧場を持っているわ、すごいのがごろごろいます。

というのは、この国は賃金格差がすごい激しいんですよ。日本みたいに、社長が一般社員の3倍とか4倍なんて、もうそんなの、もう何十倍。

星野：だから、アメリカでかなり差がある、日本はあまり差がないって、よく出てくるけど、オーストラリアは中間ぐらい。

山口：日本は世界で一番差がないでしょう。

星野：まだないでしょうね。現状では差がだいぶついているのですが、まだ少ないと。それは言えますよね、確かにね。

山口：だから、わたしも投資銀行にいて、28、9歳で一人前のトレーダーになれば、1億2億なんてごろごろいましたね。だから、そんなに長く仕事をする必要は何もないんですよ。

星野：で、ぼんと辞めちゃって。

山口：うん。で、そこでもう株式とか不動産とかもみんな分かっていますから、頭のいい方ばかりですから。だから、ちゃんとお金をうまく運用して、じゃあ自分は35歳でもう辞めるとかね。40歳で辞める。で、あとは自分でお金を転がして、どんどんどんどん増やしていくんですね。家へ行ったら、PCが何台も並んでいて、テキパキやっていますよ。

星野：運用会社がやっているような感じで、自ら投資しているということですね。

山口：そういうことですね。いや。それは不動産だってね、ある友達は30

軒，家を持っていますね。

星野：不動産収入といっても，トラブルが予想以上に多いようですね。

山口：多いですよ。だから，そんなのは全部エージェントに任せちゃって。

星野：エージェントに任せちゃうか。

山口：うん。そういう人はもうそんな，自分で無駄な時間は使わない。30軒もあれば。

星野：そうね。それだけあるからね。

山口：やっていられないですよ。で，お金だけちゃんと貰って，ややこしいことは全部エージェントに任せる。

星野：優秀なエージェントじゃないと。エージェントも問題がある人はいるでしょうから。

山口：まあ，まあそうですけどね。そういうのは，お金のある人は代々お金がありますから，どうやってお金を運用するかというのは，この国はみんなよく知っていますよね。

税制と寄付

星野：この国では相続税は確か掛からなかったんじゃないですか。

山口：ないですね。相続税ゼロです。

星野：今もそうですか。

山口：今もないです。

星野：前も聞いてびっくりしたことがある。今もそのままですか。

山口：はい。だから譲渡税もないです。あげるって言ったらないですもんね。

星野：あと，寄付をする場合に，非常に優遇されていませんか。

山口：寄付は，その寄付をされる団体がちゃんと登録していれば，100%控除になります。

星野：だから100%控除というのは，あれは税金がそっくり減るのですか。

山口：だから、損金扱いですよ。

星野：損金扱いになる。

山口：損金扱いです。はい、じゃあ必要な机を買いましたと同じです。

星野：だから、全部税金が減るわけじゃないけど、何割かは減るといっわけですね。例えば、10万円なら10万円寄付したと。そうしたら所得によりますけども、それを6, 7万割引きで購入したような感じでしょうか。

山口：仮に1万円寄付しました。そこがちゃんと登録している団体ですよっていったら、その1万円の売り上げは落ちますね。

星野：それが経費として落ちる。税金が1万円減るわけじゃないですよ。

山口：じゃあないです。

星野：だから、そうするとある率だから、せいぜい6, 7割、割引になるというようなイメージですよ。1万円寄付して、税が安くなり6, 7,000円で買ったと同じになる。

山口：そうですね。

星野：そんな感じですよ。だから、日本人からすると、なかなか寄付というのは集まらない。いろんな団体から求められることがあるんだけど、日本人の寄付という意識が弱いのですかね。

山口：いや。それは税制の問題なんです、日本は。要はそういうふうには100%の損金扱いにならないんですよ。

星野：日本の政党に寄付したら100%損金扱いになるようです。

山口：それは、そこはできやすくしているのでしょうか。自分たちの都合のいいようにやっているわけですよ。

星野：そう、そういうところはそうだけど、あとはあんまりメリットないっていかね、少し割引があるだけなんだ。

山口：うん。だから日本人、大きな企業は寄付しないんですよ。アメリカやオーストラリアというのは、もう何十億、何百億と寄付しますよ。

星野：企業のほうは、日本も例の名前を付けてね、山一なら山一証券、まあ倒産したわけですけど、そういう山一証券の講座なんてありますよね。ニューヨーク大学の山一プロフェッサーっていまだにいますよね。それは寄付した会社の名前が残っているわけでしょう。

山口：これも個人レベルでも同じですよ、税制は同じです。有名なのは、例えば、戦前に兼松が寄付金を出したのは Sydney Hospital にある Kanematsu Institute という医学発展のための研究所です

星野：日本の企業は割とやっているよ。

山口：はい、やっていますね。

星野：個人はなかなか少ないというイメージですね、やっぱり何か格差があるみたいですね。

山口：日本人の金持ちって、もう高が知れているじゃないですか。

星野：それですかね。

山口：いや。だって税金をしっかりと取られちゃうし。

星野：この間、UC バークレーの名誉教授の人にインタビューしたときは、彼は毎年何万ドルか寄付しているって、言うのですよね。私などはそんなに何万ドルも、寄付したくないので、全然、意識が違うなと思います。

山口：いや。わたしは税制だと思います。

星野：そうですか。

山口：はい。いや。みんなね、日本人は本当にすごく心の優しい国民だと思いますよ、平均値を取ればね。

ただ、そういう税制であんまりメリットがないから、それと、要は賃金格差がそれほどないわけだから、日本で成功者だ、大社長だっていったってたかが数千万じゃないですか。この国なんて、ほんの 27、8 歳のトレーダーが何億取っていますよ。だから、もう全然元の収入が違うから、個人で寄付できないじゃないですか。日本の大会社の社長とといったって、日本人で年何十億取っている人がかなりいますでしょう。

星野：そんなにいないですよ。

山口：いないですよ。

星野：年収が何千万、平均何千万で、トヨタがちょっと一時高くて1億超えていたんですけども。

山口：ねえ。たかが1億ですよ、この国から見たら。話にならない。

星野：アメリカと同じ、オーストラリアもそういう意味じゃ、給料格差が非常にあると思います。そういう意味じゃそうですね。

山口：だから、個人で寄付するようなお金がないですよ。

山口氏のオフィス

星野：あと、ちょっとまた経営の話に。例えば、シドニーでもここは非常な一等地ですね。

山口：はい。

星野：そうすると、こういうところでオフィスを借りておられるわけですよ。どれぐらいするんですか。

山口：これは、オフィスは自分で持っていますけどね。

星野：これは所有されているんですか。

山口：はい。

星野：相当広いですよ、これ。

山口：161平米。

星野：買われちゃったんですか。

山口：はい。

星野：そのほうがいいと。

山口：まあ、投資。いや、自分の、家賃を自分で払って。

星野：で、管理費はどうなっているんですか。

山口：管理費は高いですね。月に1,800ドルぐらいいっていますね。

星野：管理費というのは、修繕積立金は別ですか。

山口：いや。全部入っています。

星野：そのぐらい掛かるんですか。そうすると、それを維持するのに必要なんですかね、いろんな仕事は。売り上げ上げなきゃいかんというようになりますか。で、その四つの会社を経営されているのですからすごいですね。

山口：え？ 毎日悪戦苦闘しています。

日系企業のデータ

星野：オーストラリアにおけるシドニーの日系企業のデータベースを調べているんだけど、企業情報は有料なんです。例えば、山口さんの会社のこの財務情報というのは、どこかに届けるんですか。税務署だけですか。

山口：それは、財務情報は ASIC, オーストラリアン・セキュリティー・インベストメント・コミッション (Australian Securities and Investments Commission) かな。それは義務ですからね、株式会社は。それは出していますが、たぶんプライバシーの問題があって、一般の人は閲覧できないはずですよ。

星野：そうですか。

山口：だって、ある意味税務情報みたいなものですからね。オーストラリアン・セキュリティー・インベストメント・コミッションに出すのは。

星野：株式会社だから、上場していようがしていまいが、全部届ける義務があるのでは。

山口：はい。出さなきゃいけないですね。

星野：公表しているのは上場の株式会社の分だけですか。

山口：そのとおりです。株式会社、要は上場企業です。

星野：上場している分だけ公開で、そうでないのは、公開されてないですかね。

山口：うちはしていませんね。分からないと思います。

星野：あの情報は、たぶん日本の場合だと、上場されていないで、未上場企業だって、会社年鑑に出ていますよね。大きいところは未上場企業でも入っているんですよ。

山口：うん。それは出したいところが出すんでしょうね。

星野：ああ、出したい、そういうことかもしれません。

山口：はい。

星野：本日は、急なアポでお忙しいところ、インタビューさせていただき大変ありがとうございました。

参考文献

- 1 大学経営ニュース（2008）、ハーバード大学基金 約1兆円の損失、12/4。
<http://takekan-daigaku.blogspot.com/2008/12/blog-post.html>
- 2 経済産業省（2010）<http://www.meti.go.jp/policy/mincap/index.html>
- 3 日豪プレス（2009）Move, Vol. 22.
- 4 読売新聞（2009）愛大127億円赤字 デリバティブ損失響く、6月11日。
- 5 山口正人（2000）改定新版 オーストラリア ビザガイド 暮す・働く・学ぶ夢を実現する情報源、（株）アルク。